

一 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

歴史とは、人類が誕生以来今日に至るまで繰り広げてきたさまざまな行動と行動にかかる社会的現象であり、それらの具体的な継起や相互の関連性である。

歴史の解明には、考古学とともに文献史学をはじめ、文化人類学、形質人類学、民族学、民俗学、言語学、人文地理学、古生物学、動物学、植物学その他枚挙にいとまないほどの多種多様な学問が関係する。さらに年代測定にかかるC年代学や各種理化学的手法の応用がある。もとより各分野は歴史の解明という意味において同格であり、優劣の関係にあるのではない。

象によって主導的役割を果たしたり、あるいは補助的、従属的となる。実際に適宜に他分野との学際的研究が必要とされる。

各分野は、それぞれに独自の研究対象と分析方法によって主体性を確立する。

考古学はモノを分析対象とする点に特色がある。モノとは、目で見ることができ、手で触れることができるものである。通常は人工物であるが、必要に応じて人の行動にかかる自然物も対象とされる。〔①〕貝塚に残された貝殻や魚類、鳥獣類の遺存体(骨など)は動物性の食料の残滓として重要である。また微細な花粉の抽出と分析は、自然環境や環境に対する人間の干渉の実態解明にとって不可欠の分析対象である。

しかし、考古学が第一義的に扱うのは、人の手によって加工された道具類や地上に設けられた構築物である。前者を遺物、後者を遺構と呼ぶ。遺物は持ち運びができる動産であり、遺構は大地と密着していく移動できない不動産である。

そうした一定のカタチをしたモノ自体のほかに、モノの存在を予想させる足跡や柱が腐朽したあとの空っぽの穴などがある。〔②〕そうした遺物、遺構の包蔵地が遺跡であり、かつてさまざまな行動が展開された場所である。換言すれば、そうした行動は遺跡、遺構、遺物に反映されているのだ。

遺跡の発掘は、そうした遺物や遺構を掘り当て、とり出す作業である。しかし、それは博物館の陳列棚に並べるためではない。遺跡における遺物、遺構のあり方(出土状態)を見極めて、行動との関係を読みとるための現場検証である。

る。遺物や遺構は口を開いて自らを語ろうとはしないので、あの手この手を駆使して探し出す工夫が必要とされる。考古学の勝負どころだ。^③考古学とは、遺跡の発掘から歴史解明に迫るさまざまな接近法の道程である。

考古学は、ある地方、ある時代の一遺跡が物語る歴史的事件を解明することで完結するものでは決してない。その事件が発信するメッセージを受けとめて評価することこそが重要なのである。そこには単なる歴史上のエピソードではなく、人間のあり様を洞察する鍵があるのである。

(小林達雄『考古学ハンドブック』による)

(注) 繼起 = 物事が相ついて起こること。

枚挙にいとまない = 多すぎていちいち数えきれない。

C年代学 = 岁差を使って科学的に年代を測定する学問。

学際的研究 = さまざまな分野の学者が協力して行う研究。

残滓 = のこりかす。

1 次のうち、本文中の〔①〕に入れるのに最も適していることばはどれか。

一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 例えは イ それでも ウ しかし エ さて

2 〔②〕そうした遺物、遺構とあるが、本文中で筆者は、遺物と遺構はそれぞれどのようなものであると述べているか。その内容についてまとめた次の文に入る内容を、本文中のことばを使って二十字以上、三十字以内で書きなさい。

遺物は、〔③〕であるのに対して、遺構は、地上に設けられた構築物で、大地と密着していく移動できない不動産である。

二 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

3 考古学とは、遺跡の発掘から歴史解明に迫るさまざまな接近法の道程である。とあるが、本文中で筆者がこのように述べるのは、考古学にはどのよう

なことが必要とされるからか。次のうち、最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 遺跡における遺物や遺構に反映された行動を見極めるために、遺物や遺構を掘り当て、とり出すことよりも、それらがどこにあるのかをさまざまなか方法を駆使して探し出す工夫が必要とされるから。
- イ 遺跡における遺物や遺構とそれらに反映された行動との関係を読みとった後、さまざまな方法で遺物や遺構のあり方を見極めるための現場検証を行うための現場検証を行うことが必要とされるから。
- ウ 遺跡において掘り当て、とり出した遺物や遺構のあり方を見極めて、さまざまな方法を駆使して、遺物や遺構とそれらに反映された行動との関係を探り出す工夫が必要とされるから。
- エ 遺跡において掘り当て、とり出した遺物や遺構とそれらに反映された行動との関係を読みとった後、さまざまな方法で遺物や遺構のあり方を見極めるための現場検証を行うことが必要とされるから。

4 考古学における歴史の解明について、本文中で述べられている筆者の考え方を次のようにまとめた。〔a〕、〔b〕に入れると最も適しているひどづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、〔a〕は十二字、〔b〕は九字で抜き出し、それぞれ初めの二字を書きなさい。

- 歴史的事件が発信するメッセージには、単なる歴史上のエピソードではなく、〔a〕があり、考古学者においては一つの歴史的事件を解明することを完結せずに、発信されたメッセージを〔b〕することが重要である。

二 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

1 〔①〕惜しき事ぢやとあるが、皆はどのようなことを惜しいことだと言っているのか。次のうち、最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 竹の子を根もとから掘るのが禁止されていること。
- イ 竹の子を根もとから掘るのに時間がかかることがある。
- ウ 竹の子を根もとから掘るのに時間がかかることがある。
- エ 竹の子をいかげんに掘って根もとだけをあつかうこと。

(注) 法度 = 禁止。禁止されていること。

松茸 = キノコの一種。マツタケ。

2 〔②〕いはれけるを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

- 物ことに気がつく人の申されしは、「当代、法度なきとて、竹の子を根引きにしてたくさんにもてあつかう事惜しき事ぢや。三年目には、見事の竹になるに」と申されければ、みなみな聞きて、「これは仰せの〔①〕ごとく惜しき事ぢや」といはれける。又そばなる人のいふ、「そうじて松茸なども、むさと食べるはいらざる事ぢや。〔②〕三年おいたらば、大木にならふ物を」と申された。

(注) 法度 = 禁止。禁止されていること。

松茸 = キノコの一種。マツタケ。

3 〔③〕惜しき事ぢやとあるが、皆はどのようなことを惜しいことだと言っているのか。次に、本文中から〔a〕に入れるのに最も適しているひどづきのことばを、本文中から三字で抜き出しなさい。また、〔b〕に入る内容を本文中から読み取って、現代のことばで十字以上二十字以内で書きなさい。

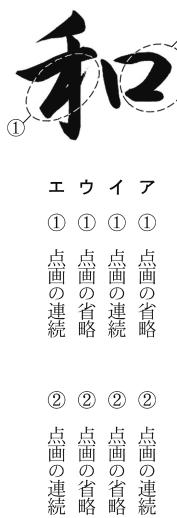
物ことに気がつく人の、〔a〕は三年たつと立派な竹になるという言葉を聞いて、松茸も〔b〕と思ったから。

三 次の問いに答えなさい。

- 1 次の(1)～(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(5)～(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解説欄の枠内に書きなさい。
ただし、漢字は楷書で、大きくていいに書くこと。

- (1) 仕事を任せる。
(2) 長年の功績を見たえる。
(3) 弁護士が告訴状を作成する。
(4) 有名な建造物を見学する。
(5) 機械のセンサー家に相談する。
(6) カギりある資源を大切に使う。
(7) ヨウフクのしわを伸ばす。
(8) 主人公の成長したスガタを描く。

- 2 次は、「和」という漢字を行書で書いたものである。楷書と比較したとき、(1)で囲まれた①と②の部分に表れている行書の特徴の組み合わせとともに最も適しているものを、次のア～エから一つ選び、記号を○で囲みなさい。



- 3 次のうち、返り点にしたがって読むと「財を生ずるに大道有り。」の読み方になる漢文はどうか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 生スルニ 財ヲ 有レ 大レ 道。
イ 生スルニ 財ヲ 有リ 大二 道。
エ 生スルニ 財ヲ 有レ 大一 道。

しかし、いきなり、思索せよといわれてもなかなかうまく行かない。思索を準備するのもっとも簡単な、また確実な道ではないかと感じている行為がある。それは、「読む」ことで終わりにするのではなく、「書く」ことだ。さらには、「読む」と「書く」を繰り返すことなのである。

「読む」と「書く」はもともと、本当の意味で何かを認識しようとする一つの試みの、二つの側面にはかなならない。

真に認識することをここでは「分かる」と表現する。人生の意味を「分かる」とするとき、「読む」と「書く」は、呼吸のように分かちがたく結びつく。たくさん読んで、たくさん覚える。それだけでは何も始まらない。それは鐵てつを身につけただけで自分が強くなつたと思い込むに似ている。吸うことだけを訓練しても、なかなかうまく吐けるようにはならない。深く吸うためには、深く吐くことを覚えてはならない。

現代の心は幼い頃からたくさん「読む」ことによってため込んだ情報でいっぱいになっている。私たちそれを、ひとたび「書く」という営みを通じて外にとき放つ必要がある。

思っていることを「書く」のではない。それはメモに過ぎない。むしろ「書く」ことによって、自分が何を考えているのかを知る。「読む」ことで私たち人が何を考え、感じているのかが分かるようになった。次は、「書く」ことで自分が何を感じ、どう生きているのかを確かめる番ではないだろうか。日々を生きなくてはならないのは、他者の考えではなく、私たち自身の人生なのである。

(若松英輔『言葉の羅針盤』による)

- 1 次のうち、書物と熟語の構成が同じものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 飲食

- イ 曲線

- ウ 停車

- エ 善悪

四 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

同じ本を読んでもそこに見出す意味は個々の人間によってまったく違う。それどころか一つの文字にも人は、まったく異なる意味を感じている。

学問的な事実はある。学者はそれを探究するが、読者はもっと自由に書物に接することができる。私たちは書物に、客観的事実とは別なく、「私」の眞実を見つけてよい。だが同時に、読書は自分だけの固有な経験であることもよく認識しなくてはならない。自分と異なる読後感があつてもそれを否むことは誰にもできない。

本を多く読むのと、深く読むのがまったく異質な経験であることは、「読む」を「食べる」に置き換えすればすぐわかる。数多くのページをめぐれば深く泳けば、海を深く理解できる信じ込むことに近い。ゲーテと同時代人でもあった哲学者のショーベンハウバー（一七八八～一八六〇）は、近代人が陥りがちな多読をいざめるようにこう記している。

読書は、他人にものを考えてもらうことである。本を読む我々は、他人の考えた過程を反復的にたどるにすぎない。習字の練習をする生徒が、先生の鉛筆書きの線をペンドたどるようなものである。

〔読書について 他〔他篇〕 羅蘭忘隨記〕

哲人は、読書が意味だと語っているのではない。ただ、お手本をなぞるような読書からは抜け出さなくてはならないというのである。彼ら私たちを誘おうとしているのは読書という習慣ではなく、読書を通じた思索の営みだ。本書の表題は、「思索について—読書によって陥りがちなわなをめぐって」とでもした方が内実に近い。それほど著者は読者に向かって強く、読書だけで終わる生活を戒め、思索を促す。「思索」という表現は、あまりなじみもなく、難しく感じるかもしれないが、ショーベンハウバーがいうそれはじつに明快で、私たちがいつか向き合わなくてはならない人生からの問いを生きることを指す。

- 2 「読む」ことで終わりにするのではなく、「書く」ことだ」とあるが、本文中で筆者が「思索の準備」として「読む」と「書く」ことの両方を挙げて、本文において、他人の考えた過程を反復的にたどる読書のことを筆者はどのように表現しているか。最も適しているひとつづきのことばを、本文中から十二字で抜き出しなさい。

- 3 「読む」ことで終わりにするのではなく、「書く」ことだ」とあるが、本文中で筆者が「思索の準備」として「読む」と「書く」ことの両方を挙げて、本文の中ではなぜかその内容についてまとめた次の文の□に入る内容を、本文中のことばを使って四十字以上、五十字以内で書きなさい。

思索の準備として、「読む」ことで人が□ことができるから。

- 4 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 読書は自分だけの固有な経験であり、同じ本を読んでもそこに見出す意味は個々の人間によってまったく異なるため、学問的な事実を探求する学者と違つて、私たちが書物から客観的事実を見つけることはできない。イ プールで長く泳けば海を深く理解できる信じ込むことと同じように、多くのページをめぐれば深く世界を認識できると思うことは空想に過ぎないため、近代人はだれも読書に陥ることはなかった。

- ウ ショーベンハウバーは、読書を通じた思索の営みへと私たちを誘い、読書について述べた著書の表題を、「思索について—読書によって陥りがちなわなをめぐつて」とした。
- エ 「読む」と「書く」は真に何かを認識しようとするとき、それらは呼吸のように分かちがたく結びつく。

番

得点

二					
3				2	1
b			a		
			松 茸 も		ア
20					イ
と					ウ
思					エ
っ					
た					
か					
ら					
。					
		10			

4		3	2					1
b	a						遺物は、	アイウエ
		ア						
			30					
		イ	であるの					
		ウ	に對して、					
		エ						
						20		

<input type="checkbox"/> 9		<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	採 点 者 記 入 欄
----------------------------	--	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

13	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3			<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 2	採 点 者 記 入 欄
----	----------------------------	----------------------------	----------------------------	--	--	----------------------------	----------------------------	----------------------------

四		3		2		1	
4		3	<th>2</th> <td><th>1</th><td></td></td>	2	<th>1</th> <td></td>	1	
ア	50						
イ	こ と が で き る か ら 。					12	
ウ							
エ							

		三							
3	2	1							
ア	ア	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
イ	イ					建	告	功	任
ウ	ウ	スガタ カタ	ヨウ カギ		セン モン	造	訴	績	せ る
エ	エ		フク	り					

<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 3		<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
-----------------------------	----------------------------	--	----------------------------	----------------------------	----------------------------